

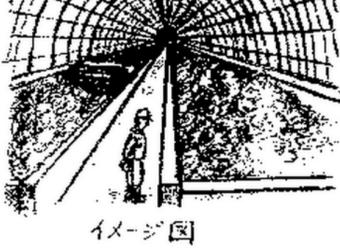


生ごみ堆肥化の救世主・・・土着の微生物で堆肥をつくる

念願かなった視察 一昨年の島民大学講座で、醗酵微生物の講義をされた小泉武夫先生が推奨されていた生ごみの堆肥づくり。そこで紹介された「堆肥づくりの達人」葉坂勝氏の、これまでとは違った方法に興味を持ちました。さっそく氏の著書を読み、その人間性と強烈な個性にいたく共感し、実際に会ってみたいと思いました。

今年度の議員の行政視察は、屋久島と石川県でしたが、私の都合もあり参加しませんでした。その後、日ごろ堆肥化に興味を寄せていた小宮山議員が葉坂氏と交渉し、視察が実現しました。同様な関心をもっていた土屋博議員も加わり、計4人で自費で行ってきました。

原始的な構造だからこそ納得 10月30日早朝、東北新幹線で仙台へ。市街地をはずれた小高い丘のうえに、目指す有機性廃棄物を高速醗酵堆肥化する工場「ハザカプラント」がありました。その仕組みは、幅3メートル深さ2メートル奥行き100メートルの細長い巨大なコンクリート製の「溝」に生ごみなどの有機性廃棄物を入れ毎日4mずつ移動させ、長い溝を25日かけてかき混ぜていくというものです。醗酵のために種菌も入れません。ひたすらかき回すだけで25日後に完熟堆肥に変わります。出来た堆肥はさらに選別機にかけられ、混入したプラスチックごみ、ビニール、鉄くずなどが篩に分けられ、さらさらとした堆肥になります。



イメージ図

かき回すのは機械なので人手もかかりません。原始的で単純な構造が素晴らしい。「溝」はかまぼこ型のアクリル板ドームで覆われていて、においも思っていたより気になりませんでした。ドームの中は、立ちのぼる蒸気でムンムンとしています。それは微生物の働きが盛んであることを示す醗酵熱のせい、雪の降る仙台の冬でもこの中は暖かいそうです。

この方法のメリットは この工場のコンセプトは、土から生まれた有機性物質を土に戻す循環をつくること。だから生ごみ、汚泥、し尿、家畜糞尿、魚介類、油などのあらゆる有機性廃棄物を受け入れることができるのです。チップ化された伐採木もOKです。脱臭設備も特に必要とせず、工場からの廃液もありません。だから維持費もほとんどかからないのです。また、建設費も用地も他のごみ処理施設より少なくてすむといわれています。工場のような、すでに12年前の「暮らしの手帳」にも詳しく紹介されています。

とんどこからないので。また、建設費も用地も他のごみ処理施設より少なくてすむといわれています。工場のような、すでに12年前の「暮らしの手帳」にも詳しく紹介されています。

堆肥化にこだわりたい 昨年の一般質問で、私は生ごみを堆肥化する施策をすすめるよう町に要望しましたが、現時点では堆肥化には多くの問題があるので計画はないという、極めて消極的な回答です。しかし、水分をたっぷり含んだ生ごみを焼却することに、私はいまだに抵抗があります。島の基幹産業である花卉園芸などで多くの化学肥料が使われていることも問題だと思っています。今、多くの町村で生ごみ堆肥化の取り組みがなされ、また家庭で生ゴミを堆肥化する家電も販売されていますが、規模や経費や堆肥の質などでまだ改良の余地がありそうです。

どの方法がいいのかは今後の課題 生ごみの堆肥化事業は、小笠原村では試験段階、御蔵島や青ヶ島ではすでに実施されていますが、不純物の混入や堆肥の完成度などの点で課題もあり、まだ試行錯誤の状態といえます。一方で、長野県のレインポーランなど成功している自治体の例もあります。問題点はどこにあり、どう改善すればいいのか、また規模や仕組みについても今後しっかりと検討していきたいと思えます。

12月議会の論議から

町の軽油購入価格にはびっくり 町営バスなど公営企業で使っている軽油の購入価格が市場価格より高く、しかも同じ役場のなかでありながら一般会計の購入価格よりも高いことが明らかになり、みなびっくりしました。市場原理からすれば消費量が多い顧客は通常より安く購入できるはずだからです。議会では、これは見過ごせないと、経済企業委員会で議論し、町として毅然とした態度をとるべきだと進言しました。町は当面、契約価格で折り合いがつかなかった場合、そのつど安いスタンドで給油することになりました。



観光対策費、ひょうたん島サミット実施委託料など

今年度町は、観光客誘致のための緊急対策事業として多額の予算を組みました。しかし、旅行会社の企画で来島した団体客は昨年にくらべて増えていません。一方、プラス1万人プロジェクトでは宿泊施設・事業所や住民が頑張って着実に成果をあげています。皮肉にも、町の施策よりも住民のアイデアや取り組みのほうがクローズアップされるかたちになりました。

ひょうたん島サミットは、当初、ひょうたん型をした島の町村が一堂に会し観光対策を話し合うという企画でした。しかし実際行なわれたのは、ひょうたん島の人形劇上演2回と熊倉一男氏ほか2名によるトークショー。いずれも八丈高校の視聴覚室で開催され、聴衆は全体でもわずか307人に留まりました。業者委託料580万円。費用対効果を考えてほしいものです。

文化財保護費 16年度決算資料によると、文化財や遺跡の保存に対して町はあまりお金をかけていません(約85万円)。八丈島には貴重な縄文遺跡や流人の歴史があります。これらが観光客に注目されていることを考えれば、史跡や遺跡などの文化財は貴重な観光資源です。老朽化している建物の修理や資料保存も急務。きちんと整理し維持管理すべきだと思います。

12月議会一般質問(2005年12月12日)

1. 大島経由便の活用について

全日空が提示した条件付航空運賃値下げをきっかけに、1万人の旅客増を目指して町をあげての大運動が展開されています。取り組みの効果は確かに現れてきているものの、一方で大島経由便の搭乗者数はきわめて少なく、このまま搭乗率が低迷すれば減便を強いられかねない状況です。



奥山 直行便より安くする施策、大島との交流を増やす施策について町はどのように考えていますか。

企画財政課長 直行便と大島便の振り替えの際におこる問題の改善や、全日空への要望を続けることで大島便は利用されるようになって考えている。

奥山 全日空は、1万人増達成の有無にかかわらず、来春4月以降も大島便は残すと言っています。以前の4便体制を望む声もありますが、これはきわめてむずかしい。だとすれば今は大島便を使いやすくして有効活用する道をさぐるべきで、大島便に乗りたくないように、直行便より安い料金にすることです。当面は1月から3月までの3ヶ月、町に運賃の一部(2000円)を補助すれば大島便は必ず利用されるようになります。直行便は観光客のためにも確保すべきであり、大島便は島民に利用してもらうよう促すべきです。

つぎに大島との交流の機会を増やす施策についてです。大島発の八丈ツアー、八丈発の大島ツアーの企画についても考えてほしい。お互いの島、お互いの人や産業や文化を知るいい機会になると思えます。

企画財政課長 2000円補助する考えはない。島めぐりの旅行企画については旅行会社と相談する。

2. 乳がん検診にマンモグラフィー(乳房X線撮影)の導入を

町は毎年様々な検診事業を実施しています。そのうち乳がん検診については視触診法がとられていますが、増え続ける乳がんの早期発見に向けて全国的にはマンモグラフィーの導入が進んでいます。

奥山 マンモグラフィーを導入すべきだと思いますが、町はどう考えていますか。

健康課長 将来的には導入したいが、機器や技術が国の基準に達していないので現状ではむずかしい。

奥山 日本女性の乳がん罹患率は年々増加し、壮年女性のがん死亡原因のトップになっています。厚生労働省は2004年4月に、40歳以上のマンモグラフィー検診(2年毎)を原則とし、各自自治体を取り組むよう通達を出していますが、町は導入を見合わせています。障害となっているのは(1)施設・機器の精度(2)技師の撮影技術(3)医師の読影能力 それらが基準に達していないことです。これらがクリアできるまでの間、住民はただ待っているだけなんでしょうか。町立病院にはマンモグラフィーがあり、診療には使っているのに導入できないというのであれば、導入するためには何が必要で、何をすべきかを考えるべきです。たとえば、従来の視触診検診を基本とし、マンモグラフィーを使った検査をオプションで実施するという町独自の健検基準をつくるのはどうでしょうか。町の姿勢を訴えれば、病院側も協力してくれるはず。全国平均受診率は12.4%、町の場合は10.3%と低く、これをあげていくのは町の仕事。住民への啓発も必要です。広報や病院内の掲示、講演会などを考えてほしいと思えます。

健康課長 町独自の検診は今後前向きに考えたい。住民への周知については広報などで実施していく。

管理者 病院の装置は古い型で、基準に達していないので現状では難しい。

奥山 離島は高度医療が受けにくい地理的環境にあります。だからこそ予防と早期発見が重要です。また、できれば女性医師・女性技師に担当していただきたいので、そちらの育成も進めてほしいと思えます。

総合開発審議会(=総開審)ってなあに

町には、町の将来像を描いた「基本構想」とそれを具体化するための「総合開発計画」があり、その策定と都市計画行政の円滑な運営をはかるために「総合開発審議会」が設置されています。各地域・各分野から13人の学識経験者が住民代表として選ばれ、これに議員が5人加わります。任期は2年。「都市基盤」「産業」「生活と文化」の3部門に6人ずつ分かれ、内容が検討され、『八丈町基本構想、基本計画』がつけられます。基本構想は10年ごとに、基本計画は5年ごとに見直され、今年があらたな「基本計画」がつけられます。私は昨年議員を辞職した沖山芳清氏の後任として加わり、この冊子は希望があれば、町役場の企画財政課でもらえますので、興味のある方は目を通してみてください。



町の方向性を決める大切な作業に、住民が直接かかわるというのは素晴らしいことだと思います。まさに官主導ではなく住民主導のシンボルの存在で、町が目指している事業内容がよくわかりました。私も一般質問するときに時々利用しています。町の施策が基本計画と異なっていたり実現がおくれたりした場合は、行政に対して要望や疑問を投げかけています。この冊子は希望があれば、町役場の企画財政課でもらえますので、興味のある方は目を通してみてください。

ぶ・れ・い・く・た・い・む

島おこしシンポジウムに参加しました。町の観光の問題点を参加者一人ひとりが書き出し、これをグループに分かれてまとめました。すると各グループに共通する課題が浮かび上がりました。「雨の日対策」「島産の食べ物」「観光地を結ぶ交通アクセス」など、課題や改善点は出そろった感じがしました。こうした住民参加の町づくりの動きは、これまでなかったような気がします。若い人の力と町が変わっていくといううれしい兆しを実感しました。

プラス1万人プロジェクトは、頑張っていますが、目標まであと一歩の状況です。町長自ら住民に訴え、議会でも色々な打開策が検討されました。私も出来るだけのことしようと思ひ、朝日新聞「声」欄に投書しました(「直行便減って島民は不便に」2月9日付、原文は私のホームページをご覧ください)。なんとかこの目標を達成させよう。

編集後記

今年の冬は寒く、八丈島に60年振りの積雪がありました。「わー、きれい！」とつい喜んでしまいましたが、雪国では記録的な豪雪のためにこの冬100人以上の方が亡くなっています。異常気象は年々深刻になっています。地球温暖化はこのところ確実に速度を増しているようです。温暖化防止のために、私たちもふだんの暮らしの中でできることを考え、実行しましょう。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)